

令和元年度第1回 川越市農業振興審議会 会議要旨

1 開催日時 令和元年7月5日（金） 午前10時～11時50分

2 開催場所 川越市立美術館アートホール

3 出席者

平口嘉典、石川秀夫、伊藤匡美、竹澤穰治、田島玲子、内田光夫、小泉晃一、布施幸宏、柏井喜代恵

4 欠席者

小倉元司、水村政巳

5 事務局職員

産業観光部部長 井上敏秀、
小野寺雅樹、矢野雄一、落合栄寿、小川覚一郎、岸野勉、高梨峰継、永倉久幸、
持田雅之、関口萌子

6 会議の概要

1 開会

2 会長挨拶

昨年度は農業振興計画の策定に当たり、活発なご審議を賜り感謝申し上げます。
本日は新しい令和時代の川越市農業の振興について活発なご審議を頂きたい。

3 委員紹介

退任した埼玉県川越農林振興センターの田島光恵氏、公募委員の糸真美子氏
について事務局より報告した。また、田島委員の後任として、埼玉県川越農林
振興センターの布施幸宏委員よりご挨拶をいただいた。

4 職員紹介

（事務局紹介）

5 議事

(1) 前川越市農業振興計画指標等について

(2) 川越市農業振興計画（平成31～令和9年度）について

(1)(2)について、事務局から関係資料を説明し、以下のとおりの質疑等があった。

(委員)

- ・新規就農者数は、雇用就農を含む数か。農家子弟の就農＋自立経営のみか。

(事務局)

- ・農業次世代人材投資資金（旧青年就農給付金）の給付対象者のみを指している。農林振興センターで毎年集計している新規就農者とは異なる。

(委員)

- ・指標 13・14 に関連して、特別栽培農産物等を栽培する農家が減少していることについて、付加価値を PR する必要があるとの説明があったが、消費者に対して PR する必要もあるが、作り手がそのような農法に移行することによりそれなりのメリットがあったり、買い手がいないと難しい。川越市として生産者に「このような農法をやりませんか」という働きかけは行っているのか。

(事務局)

- ・実際には行っていない。農家で志している方がいればそれに応じて支援している。普通の栽培よりも手間や労力がかかるが、その手間や労力に見合った価格転嫁が難しい。理想と現実が離れている部分である。

(委員)

- ・支援とは具体的にどのようなものか。

(事務局)

- ・特別栽培農産物やエコファーマーの認定は県が行っているもので、市で積極的にできることは少ない。市の補助メニューとしても、特別栽培農産物に限らず環境保全につながるような農法を実施する農業者に対して、補助の仕組みはある（環境保全型農業推進事業）。
- ・環境保全型農業推進事業として市が補助しているものでは、下赤坂の組合がフェロモントラップを設置しており、その薬剤への支援をここ数年行っている。また、トラクターに設置する草刈りのアタッチメントを共同利用する場合、購入代金の一部を支援している。

(委員)

- ・計画 27 ページ「農業に関する効果的な情報の受発信」に特別栽培農産物やエコファーマーと関連させ、付加価値や応援する制度について情報発信すると農業者の関心も向く。
- ・主にどのような内容の情報を発信しているのか。
- ・以前の審議会でも意見したが、メール、紙、電話等どのような媒体で行うのか。

(事務局)

- ・内容については、市のホームページで「事業者向け」から「農業」関連について発信しているが、今後は市民向けのところからも情報発信できるように改善したい。
- ・広報の一般記事でイベントについて発信したり、10日号の「頑張る川越農業」というコラムで情報発信している。また、農業者向けの農業委員会の情報誌にも農政情報の記事を出している。
- ・どのような媒体を使ってどのような人に発信していくとよいのか、ということは施策全般に通じる重要なことであり、積極的に取り組んでいきたいため、0番目に全体に共通する方針として位置付けている。

(委員)

- ・指標7番目の「人・農地プラン」について、農地集積などの計画を策定して進めていると思う。1箇所策定されていないのはどのような状況か。

(事務局)

- ・昨年度で12地区全ての策定を目指していたが、霞ヶ関地区で地域の話し合いを進めることができなかった。今年度同地区の策定を進めていきたいと考えている。

(委員)

- ・農地中間管理事業について、農家の方に知られていない。説明すると、あと数年経って自分で耕作できなくなったら機構に任せたいという話をよく聞く。農政課で農家へのPRをもっと頻繁にしてもらえると制度が広まると思う。

(事務局)

- ・農地中間管理事業については、現在はほ場整備事業を実施した所で「人・農地プラン」と合わせて農地集積を進めている。今後も中心的な進め方としては、地域としても取り組みやすいのでは場整備とセットで進めていくが、それと同時に、ほ場整備していない地域にも農地中間管理事業の理解を深めてもらい、農地の貸し借りをしやすい環境を整えていくことは重要だと思う。

(委員)

- ・3haを耕作していた人が突然体調を崩し、私には80a程度の耕作の依頼があったので耕作している。耕作してくれる人がいる場合はよいが、いない場合は、遊休農地となってしまうので、農地中間管理事業を活用した道筋をつけてほしい。

(委員)

- ・計画 45 ページの 11 さといも・12 葡萄の作付面積の目標値が変化していないのは、いまの状態を維持していくということか。

(委員)

- ・後継者が減少しているので、現状維持が目標である。

(委員)

- ・やめる人がいるなか、残った方が規模を大きくしてやっていくということか。

(事務局)

- ・あるいは、新規に取り組む方がいるとよい。

(委員)

- ・AI、IoT、ロボットなど新しい技術も活用できるとよい。

(委員)

- ・川越市の農業で外国人の雇用は何人くらいあるのか。

(事務局)

- ・人数までは把握していないが、福原エリアで多く、外国人がパートタイマーの形で手伝いをしているほ場がいくつもあることは認識している。

(委員)

- ・私のうちでも外国人の技能実習生を 2 人雇用している。1 人はベトナム人。福原地区は野菜生産がさかんなので、雇用していかないと「儲かる農業」はできない。川越市では 10 軒程度受け入れていると思う。特に福原地区が多い。

(委員)

- ・家族で来ているケースもあるのか。

(委員)

- ・周辺ではないと思う。

(3) 令和元年度の主要事業について

事務局から関係資料を説明し、以下のとおりの質疑等があった。

(委員)

- ・資料 3 の 5 ページに「農業者等に 100 万枚配布」と記載があるが、何を配布

するのか。

(事務局)

- ・ロゴマークのシールである。農業者に無料で配布して、農産物の袋等に貼っていただいている。

(委員)

- ・10～11 ページについて、これらは単年度の事業か。具体的なスケジュールを説明してほしい。

(事務局)

- ・今年度に農業ふれあいセンター改修の実施設計をして来年度工事し、来年度か再来年度の始めにリニューアルオープンする予定。農園の工事は今年度行う。最近工期が長引いているので、工事が来年度中に終わるかわからない。キャンプスペースはそれ以降になる。また、伊佐沼の遊歩道はさらに後になる。一辺に完成するのではなく、徐々に出来上がっていくイメージだ。

(委員)

- ・川越市は広域観光が求められているので、活用できるとよい。
- ・11 ページの「蔵 in ガルテン川越グリーンツーリズム推進協議会」の連携団体の中に DMO を入れてほしい。可能であれば検討してほしい。

(委員)

- ・3 ページの鳥獣被害対策に関連して、私は仕事でジビエに携わっている。捕獲を支援すると書いてあるが、どのような形や時期で捕獲支援をする計画なのか伺いたい。

(事務局)

- ・川越市鳥獣被害防止対策協議会で柵を 100 個購入し、農協の支店など市内 3 箇所に貸出場所を設けて農家に貸し出す体制をとっている。捕獲には従事者証が必要なので、協議会で講習会を年 2 回程度開催して、免許を交付している。

(委員)

- ・長野県でシカを捕獲しようとするとうま県に逃げてしまい、捕獲できなくなってしまうそう。捕獲支援は周辺の地域と連携して行ってほしい。また、支援は年 2 回とのことだが、繁殖期の直前に罠をしかけるのが最も効率的だそう。アライグマの繁殖期は 1～3 月らしい。

(委員)

- ・1月は食害は少ない。

(委員)

- ・食害の多い時期、また、繁殖前に罠をかけないと効果がない。アライグマ等は一度に子供を6~7匹産み、ネズミ算で増えてしまう。どの時期で捕獲を強化するか等についてアライグマのスケジュールに合わせて行くと効果的だと思う。

(委員)

- ・情報発信に関連して、オリンピック・パラリンピックがあり、川越市も開催都市となっているが、世界的な大イベントに向けて川越の農業・農産物をPRすることは考えているか。また、川越市は花の産地であり、切り花や花壇苗の生産が盛んだが、オリンピック等に向けて会場周辺や主要な公共施設などの花壇に植栽してPRしていくような計画等はあるのか。

(事務局)

- ・今年のラグビーワールドカップ、来年のオリンピック・パラリンピックに加え、市制施行100周年も今後控えている。今年のラグビーワールドカップ、来年のオリンピック・パラリンピックに向けて、農泊事業のグリーンツーリズムとして訪日外国人に向けてアプローチを行う。
- ・農産物のPRについてはオリンピックの会場内は事務局にシャットアウトされているため、入る余地がない。ボランティアや大会関係者、観客が川越にも多数訪れるはずなので、川越産農産物ブランド化連絡会で何ができるか考えているところである。ただ、PRが可能な範囲がまだよくわかっていない。花きについてはオリンピック大会委員会の方でも植栽をやりようとは考えているようなので、それに対して農政サイドで可能な部分をお手伝いしていきたい。

(委員)

- ・ゴルフ大会期間中関係者だけでも一日5千人おり、一日3食、1ヶ月、お弁当や食事が必要なので、商工会議所でオリンピック組織委員会に食材や土産品に地元産品を使ってほしいとお願いしたが不可だった。基準があり、東京都内で一括して調達して提供するようだ。せめて土産品の販売をさせてほしいとお願いしたが、笠幡駅から競技会場までのロードサイドも不可といわれている。継続的に組織委員会等に働きかけていきたいと考えているが、なかなかハードルが高い。オリンピックでは会場内の飲料やスナック関係はスポンサー企業が決まっているようだ。

(事務局)

- ・ゴルフのオリンピック大会期間中は一日2万5千人程度の方に来ていただける。霞ヶ関カントリー倶楽部と都内の行き来で終わりではなくて、カントリー倶楽部と川越駅とのピストン輸送もする予定なので、川越駅から市内の観光地域まで足を延ばしていただけるような環境をつくりたい。来年5~6月には川越駅直結で民間施設がオープンする予定なので、活用ができると思う。笠幡駅からの徒歩ルートや会場内は難しいようなので、できる部分で工夫をしたい。また、ご意見があれば対応していきたい。

(委員)

- ・海外の方はオーガニック志向の方が多いので、川越市でパンフレットを作って、川越産農産物が食べられる飲食店や、特別栽培農産物を優先的に使っているお店を紹介できるとよい。
- ・海外の方は動物性食品を食べられない方もいて日本での食事に困っている。川越でも一部では対応メニューを置いているお店もあると思うので、案内するようなパンフレットのようなものを英語で作って配布するのもよい。都内に行くとそのような飲食店はあるが、埼玉はまだ少ない。川越で食事しないで都内に帰ってしまうと残念だ。
- ・学校給食に特別栽培農産物やエコのものを供給するとよいと思う。大人は体が出来上がっていて、脳に毒素がいかないようにする血液脳関門のフィルターがしっかりしているが、20歳未満の若い人はそのフィルターが粗く、化学物質が脳に移行しやすい。アレルギーや学習障害、多動性などは化学物質による影響だと海外では言われている。学校給食への提供は全校では難しいが、モデルとして1校実施してみて、そうした流れをつくったり、消費者にメリットを伝えられるとよい。そうすれば、前農業振興計画後期指標の達成状況Dへの対策になると思う。いすみ市は学校給食に全量有機栽培農産物を供給している。韓国もさかん。また、三富新田も落ち葉堆肥で有機栽培をさかんに行っている。そうした地域と連携して、消費者にも農業者の人にも啓蒙を広げられるとよい。

(事務局)

- ・外国人への食事の関係だが、グリーンツーリズム推進協議会で食事メニュー開発を行うので、川越産農産物を使ったストーリー性のある食事やベジタリアン向けの食事を今後検討していきたいと考えている。

(委員)

- ・外国人向けではグルテンフリーなども志向が高い。川越産のお米を加工できるとよい。

(委員)

- ・先程グリーンツーリズムの中でDMOとの連携の話があったが、そのように街中を巻き込んでほしい。
- ・川越はますます観光客が増加しているが、一人ひとりの使うお金は減少しているようだ。また、観光客の満足度は下がってきている感じがある。グリーンツーリズムの事業を推進する際は、川越にお金が落ちるような視点を常に持ちながら事業を推進してほしい。
- ・「川越産農産物を生かした食のコンテンツづくり」があるが、「川越産のおみやげ」を作るとよい。インバウンド受けやシニア受けするよう、ターゲットを設定して開発し、軽くて持ち帰りやすく税関を通りやすそうなものだとよい。川越にお金が落ちる形でのグリーンツーリズムを推進してほしい。

(委員)

- ・農地中間管理事業は農地のみで、機械の管理事業はないのか。高額な機械を使っていない人がいれば、それを借りたい人もいると思うので、市が間に入ってもらえるとよい。

(事務局)

- ・農機具のリースは市では行っていないが、共同利用を前提とした農機具の購入に対する支援のしくみはある。

(委員)

- ・先程鳥獣被害の話があったが、最近鳥獣ではなく人による盗難被害が増えている。対策として看板設置等を検討してほしい。

(事務局)

- ・農協が看板設置しているところはいくつかある。市での対策は現在はない。

(委員)

- ・注意書きなどしてほしい。うちは今年ハウスに入られている。作物だけならまだまだだが、施設を壊されると困る。注意喚起をしてほしい。

(委員)

- ・野菜や柿などの作物を盗んで袋詰めして売っている人がいる。

(事務局)

- ・何か対応を考えたい。

(委員)

- ・多面的機能支払交付金の効果があった。水路の泥上げを機械を使って行い、

長い間ヨシやガマが生えていた田んぼに作付けが行われた場所が2~3箇所ある。いまのところは順調に育っているので、多面的機能支払交付金の効果だと感じ、よかったと思っている。

(委員)

- ・多面的機能支払交付金は地域の環境保全や、水路の改修等による農業の生産性向上が目的の一つだが、都市農村交流の部分も含んでいる。人手が足りないところに都市から人を呼んで一緒に泥上げ等をやれるとよい。川越市の場合、都市部にいる市民や大学生に来てもらい、今後広げていくと活動がさらに活発になると思う。

(委員)

- ・伊佐沼保全組合の下に「ハスの会」がある。ハスの根が全体に張ってしまうと、花が咲かないので、ハスをよく咲かせるために毎年3月くらいにハスの根を掘り上げ、土を戻している。毎年50人以上に協力してもらっているが、市民で興味のある人に周知できればより広がると思う。

(委員)

- ・グリーンツーリズムと連動できるとよい。

(委員)

- ・私の運営している「NPO 法人かわごえ里山イニシアチブ」では春に水路の掃除である堀さらいを行っているが、ホタルの餌であるカワニナが出たり、様々な生き物がいる。川越市が実施している生物多様性のモニタリング調査と連携し、「たんぼの生き物調査」を実施しており、募集すると定員40~50人に対して70人程度来る。特に子供は生き物好きなので楽しんでもらえる。ドブの掃除も生物多様性と絡めた見せ方や広報をするともう少し人が集まると思う。

(委員)

- ・芳野小学校3年生は毎年伊佐沼で生き物調査を行っている。伊佐沼は手長エビなどもとれるので、子供達は目を輝かせて行っている。

(委員)

- ・田んぼにIoTカメラを設置している。太陽光なのでほとんどコストがかからない。材料費入れても1万円かからなかった。カメラがあるだけで、盗難防止になるのではないか。気温などを計測できるのでデータ収集にもなる。フェイクのカメラもあるので効果があると思う。

(委員)

- ・以前ハウスに盗難に入られた後、「防犯カメラ作動中」という注意書きを設置したら入られなくなった。

(委員)

- ・川越は山はないと思うが、人工林と自然林の割合は鳥獣被害と関係していると思う。人工林はスギ・ヒノキが中心で下草が少なく生物多様性が低くて動物がすめる状態ではないが、自然林はエサやすみかが豊富で生物多様性が高いので、自然林が多いと鳥獣も森から畑に下りてきにくくなる。
- ・入間市はNPO 団体に委託して加治丘陵の手入れをし、間伐して森に光を入れて、生物多様性が高い森が増えてきている。人工林が生物多様性の高い森になれば鳥獣のすみかが増えて、間接的に鳥獣被害を減らせる一助になると思う。
- ・川越市は人工林と自然林の割合はどのくらいか。また、人工林の手入れをそうした視点で市が積極的に行っているのか。

(事務局)

- ・川越市は林業はないので、その点で人工林はない。三富新田など平地林として落ち葉や薪など生活に使える植樹をしていた森林を自然林とすれば、自然林が主体。手入れについては、地権者の所有物で木も財産なので、市で何かするということはない。過去には県の補助金を使い、5年間地元の人等がボランティアで手入れするという協定を結び、支援を行ったことはある。

(4) その他

(事務局)

- ・会議要旨については昨年と同様、平口会長にご確認いただいた後、ホームページで公表する。
- ・今後の会議開催については、計画の策定年度は複数回開催するが、計画の進捗管理では基本的には年1回である。

6 閉会

(事務局)

- ・本日は審議を賜り、感謝申し上げます。以上をもって令和元年度第1回川越市農業振興審議会を終了する。